

# 釣れ釣れなるままに

2007年思い出の釣行記 PART. 5

# イカ釣り

## 雄冬海岸にて

## 鹿島釣狂

函館に出張した折に、駅前の朝市でイカソーメン定食に舌鼓を鳴らした後、時間があつたので港の周辺を見学した。すると岸壁で釣り糸を垂れている集団に出くわした。それぞれが思い思いのウキ釣り仕掛けを投げ入れてイカを釣っている。テラー仕掛けやブランコ仕掛けが中心だったが、イカの回遊ごとに一斉にパタパタとあげている。魚籠の中を覗かせてもらおうと大小織り交ぜて20杯ぐらいの釣果である。

私が物欲しそうにしているのを察知した御仁がその場で釣り上げたばかりのチビイカに醤油を付けて差し出した。唇に引っ付いたイカの吸盤を舌の先で外し、そのまま口に含むと悶える感触が直に伝わってきた。意を決してそれを飲み込むと甘い香りが喉元に広がった。「うまいべえ」という彼にウンウンと大きく肯くと、更にもう一匹に醤油をつけて差し出された。

☆入 釣 日	平成19年7月07日
☆入釣場所	雄冬海岸
☆天 候	晴れ、微風、風
☆エ サ	太イソメ1箱 カツオ3
☆釣 果	真イカ 200 mm (胴長) 9
	ソイ 200 mm 3
	ガヤ 200 mm 2

雄冬方面にもそろそろマイカが寄ってきているのではないかと、午後2時に出発した。

途中、釣具店に立ち寄り、エサのカツオと2本の磯竿を縛るマルチベルト、釣り上げたイカを入れるソフトクーラーバック、イカ釣り用のウキ（ウレタン轟3-8, 3-10）を購入した。

増毛港に立ち寄るがイカ釣り師は一人もいない。周辺にいた釣り人に聞くとイカはまだ来ていないようである。雄冬のいくつかの岩場にいた釣り人にも聞いてみたが、ソイを狙って今から準備しているとのことである。昨年始めてイカ釣りをした岩場の先端には明るい内に着いたので、周辺を散策してからゆっくりとイカ釣り仕掛けを準備する。

午後7時に釣りを開始した。遠投に心がけて何度も引くが、アタリは出ない。その内に岩老漁港から、煌々と灯りを付けた一艘のイカ釣り船が出て来て、沿岸で停泊している。少し期待が膨らんだがアタリは出ない。もう1本の磯竿を取り出してソイを狙ってウキを飛ばす。

午後9時を回ってから、漂わせていたイカ釣り仕掛けのウキに最初のアタリが出た。ウキ下3mにある発光体がイカの動きに合わせて右へ左へと引かれていく。この幻想的な光景を待ち望んでいたのだ。胴長20cm程のマイカがキュッキュッと独特の鳴き声を上げながら本日購入したばかりのソフトクーラーバックに収まった。ソイ狙いの磯竿をもう一度イカ釣り用に替えて、2本を交互に引く。10時方向に打った飛距離のでない赤い集魚灯にもチビイカが来た。その後、回遊があったと思われる短い時間帯にポツポツとイカが乗ってきた。

午後11時、回遊が少ないのかイカ釣り船も港に帰ってきた。そして、その代わりにとっては何だが、背後の山並みから三日月が出て来た。はるか遠くの水平線上ではまだ頑張っている船がいるのだが……。少しでも沖へ届くようにとウキを飛ばしていると、2号の磯竿の先から2本目が折れてしまった。遠くへと力んでいたことは確かだが、それ以外は特段のミスはなかったのだが……。これはホッケのウキ釣りが流行始めた20年も前に購入した代物なのでどこかに傷でも付いていたのだろう。いた仕方がないところか。しかし、しかしである。イカ釣りで遠投が出来るようにと昨年購入したばかりの3号の磯竿までもが折れてしまった。これも、私の方にはミスはないと思っているのだが……。昔のモノの方が丈夫で長持ちするのではなからうか？



7月7日の釣果 イカ9杯



イカ釣りの合間に釣れたソイ3とガヤ2。  
イカ釣りに集中できない原因か・・・。

☆入 釣 日 平成19年7月14日 (土)  
☆入釣場所 雄冬海岸  
☆天 候 晴れ、微風、風、潮が左から右へと強く流れる  
☆エ サ カツオ2  
☆釣 果 真イカ 200 mm (胴長) 19

女房が1泊2日で登別へ滝川のバトミントン仲間4名と出かけた。

午後3時に家を出る。途中、先日のイカ釣りで磯竿を2本とも折ってしまったので、磯竿3号を2本購入する。あわせて水中ライトやエサを購入する。

ダイワ リパティイソ3-53 9038  
ダイワ 磯風3-530 7980  
開きカツオ 290×4 1160  
水中ライトM常灯GF-TMG緑 752  
水中ライトM点滅GF-TMG緑 752  
ウレタン雷3-8 276×2 552  
ルミカケミホタル75ロングレギュラー 180

午後5時に岬先端に着いた。札幌からの先行者1名が岬から少し下がった湾洞に向かって準備をしていた。何を狙っているのかと尋ねると私と同じである。私がいつもの岬先端に陣取っていると、後からその仲間3名がやってきた。

午後7時半頃、1杯目のイカが釣れた。すると、左の湾洞を狙っていた先行者が、イカの泣いているのを聞きつけて私のすぐ左横に陣取った。その方たちは市販の2本テーラー仕掛けが災いしてか飛距離が出ず、苦戦している。その内に1杯だけ釣れたのだが「全然だめだ」と、右横の湾洞でガヤ釣りを始めた。

私はコンスタントに釣れ続いた。2本の竿で左方向に遠投し、右へ流れる潮に乗せると交互にイカが乗ってくる。一つのテーラーに2杯のイカが同時に乗ったこともあった。午前2時、薄明るくなったので終了した。帰宅後、すぐに風呂に入り、イカ刺しを肴に酒を飲んで眠る。目が覚めたのは午後4時だった。

※ 購入した磯竿2本のうち1本の先端から2つ目のガイドが壊れる。フィッシュランドで修繕してもらう。



7月14日の釣果 胴長20cmのマイカ19杯

☆入 釣 日 平成19年7月21日(土)  
 ☆入釣場所 雄冬海岸  
 ☆天 候 晴れ、微風、波2m ウネリ有り 潮は右から左へと流れる  
 ☆エ サ カツオ1  
 ☆釣 果 真イカ 200 mm (胴長) 3

18・19日は2年宿泊学習引率。

女房は美唄幼稚園時の仲間4人で函館へ1泊旅行

午前中はサッカージュニアユース大会の応援。1回戦は深川に1対1後、PK戦で岩尾が2本止めて快勝。2回戦は滝川FCに4-0の大敗。

開きカツオ	290×2	580
ルミカケミホタル75ロングレギュラー	180×3	540
モリゲンソイ15号糸付	361×2	722
ウレタン雷 3-8		276
ヤマシタエサ巻テーラデカ針L5ETDHL5		828



ヤマシタエサ巻テラーL5ETL5	738
ハニーフラッシュLED集魚灯M点滅グリーン	857
ハニーフラッシュLED集魚灯M点滅レッド	857
ルミカルミコいか6インチスペシャルグリーン 180×2	360

3週連続のイカ釣りで午後5時には岬先端に着いた。しかし、いつもの場所には三脚と竿ケースがデーンと置かれてある。先行者が場所取りのために荷物を置いて付近を探索しているのであろう。

そこから湾洞を挟んだ右の岬で準備し、極力遠投に心がけるが、届く範囲は浅くて根掛かりしてしまう。しかも、少しでも前へと出た低い岩場には波が上がってきて釣りにならない。

午後8時、反対側に移動し、そこでようやく2杯のイカをあげる。私の右に入っていた先行者は、私のものより遙遠くにウキを飛ばしている。先行者の道具立てを覗かせてもらう。遠投が可能になるようにと25号の投げ竿、テラー仕掛けには20号鉛をつけて、ウキもそれに対応した自作の大きめの発泡スチロール性のものである。旭川からのその先行者は1杯だけで、本日は見込みがないということで引き上げた。すぐにそこへ移動して頑張ってみたのだがその後は1杯のみの釣果であった。私が初めに入った右の岬に3名が入っていたのだが、その釣り人たちも大遠投でウキを飛ばし、そのウキが正面に流れてくる。先週の潮の流れとは全く反対なのだ。イカが釣れている様子は覗えず、同時に止めて引き上げる時に尋ねるとボンズだったとのこと。今日は、潮が悪く駄目だったのだと諦めがついた。

私が、雄冬海岸で磯釣りを始めたのは20年も前のことである。その頃は、ソイやハチガラを狙っていたのだが、釣れてくるのはガヤやホッケが大半だった。時折くるソイの30cm級に心を踊らしていたものだ。現在はトンネルが延びたりして入ることは出来ないが、その当時は雄冬二つ岩トンネル横の回廊を進んでトンネル裏にある岩場で釣りをすることが出来た。やはりガヤが中心だったが投げ釣りでは時折アブラコの大型物が釣れたりして驚かされたものだ。入釣者はほとんど居らず、一帯を所かまわず釣り場として自由に選べたものだ。

ある夏の夕暮れに、その二つ岩トンネル裏でガヤをガヤガヤ釣っていると、5名の団体が一挙にやってきたことがあった。そして、彼らはドッ、ドッ、ドッと発電機を回し、サーチライトで闇夜を煌々と照らし出したのだ。静かにソイ(?)釣りを堪能している時だったのでその行為が腹立たしく思えたものだ。照明を点けて何を狙っているのだろうと伺うとイカである。イカ釣りと言えば船釣りばかりと思っていたので、その光景に唾然とさせられた。その後、夜釣りの度にその光景を思い出して、その頃流行りだした小魚を模したトトスッテ(イカヅノ)を買って引いてみたりしたがイカは釣れなかった。そして、イカ釣りには明かりが必要なのだと諦めていた。

しかし、現在は明かりも点けない暗闇の岩場でイカを釣っている。発光ダイオードの発明によって小型化された水中ライトがこの釣りを可能にしているのだ。いつもは環境破壊だの地球温暖化だのご託を並べている私だが、この科学技術の進歩には大いに感謝し、その恩恵にあずかりたい。